

農政時流

第 46 号

平成30年 6 月 1 日発行

(一社)宮城県農業会議

仙台市青葉区堤通雨宮町4・17

TEL / 022・275・9164

<http://miyanoukai.jp/>

1 面：(一社)宮城県農業会議H30年度活動計画を総会で承認
～全市町村農業委員会の新体制移行に向けて～

2 面：シリーズ：「農地等利用の最適化推進に向けて」
～耕作放棄地の解消対策を率先～ 栗原市農業委員会
宮城県園芸振興大賞受賞おめでとうございます！

(有)サンフレッシュ松島

3 面：農地利用状況調査・利用意向調査の実施について
～遊休農地の解消に向けて～

情報提供活動(農業委員会だより・全国農業新聞等)の一層の推進を

4 面：新しく選任された市町村農業委員会会長の御紹介
(一社)宮城県農業会議の平成30年度事務局職員の紹介
おしらせ

(一社)宮城県農業会議のH30年度活動計画を第4回臨時総会で承認

～ 全市町村農業委員会の新体制移行に向けて ～

去る3月19日(月)に(一社)宮城県農業会議の第4回臨時総会を開催しました。

中村功会長から「改正農業委員会法の施行を踏まえ、これまでに26の農業委員会が新体制に移行、今年度はすべての委員会が移行を予定し、総勢820人の組織になります。今年度は新体制移行の完遂の転換点であり、「行動する農業委員会」の構築と、新たに重点化された「農地等利用の最適化の推進」について、今こそ真摯に農業者の意見を取り込み、組織体制の整備と活動の強化に向け取り組んでいくことが重要です。」旨の挨拶がありました。

議事では、平成30年度の事業計画と収入支出予算が承認されました。

激動の状況の中で、農業会議の平成30年度の重点活動事項は次の通りです。

第1点目は「農業委員会相互の連絡調整と取組事例の公表、講習・研修の実施」です。

新体制に移行する農業委員会に対して運営体制の整備について支援するとともに、両委員に対して農地等利用の最適化の推進に関するノウハウ等の研修や、委員会相互の連携を充実・強化します。

第2点目は「農地情報の収集・整理、農地等の確保・有効利用への支援」です。

農業委員会が行う農地の利用集積や利用状況調査・意向調査と併せ、農地中間管理機構と調整を図り農地の有効活用を図ります。また、農地情報公開システムの適切な運用と利用の取組を支援します。

第3点目は「新規参入、法人化、経営合理化支援」です。

今年は「農業経営者サポート事業」に取り組み、農業経営者や法人が抱える課題に対し、相談会や専門家による指導を行います。また、新規就農者の確保と「農の雇用事業」の普及啓発を行います。

第4点目は「担い手の組織・運営支援」です。農業法人協会、認定農業者組織連絡協議会、稲作経営者会議、アグリレディス21の事務局として、組織運営と会員の経営能力の向上を支援します。

第5点目は「農業に関する調査、情報提供活動」です。農業会議の情報誌の「農政時流」や全国農業新聞、全国農業図書の普及推進や「農業委員会だより」発行による情報提供を支援します。

第6点目は「農地法に基づくネットワーク機構業務の適正な運営」です。常設審議委員会を開催し、農地転用等の厳格・適正な運用に努めます。

第7点は「関係行政機関等に対する意見の提出」です。農業委員会で取りまとめた農業者からの農地等利用の最適化への改善策等の意見を取りまとめ、関係機関等に意見として提出します。

農業委員・農地利用最適化推進委員の皆様には、こうした取組による農業委員会組織と活動の強化並びに本会事業の推進につきまして、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



シリーズ：「農地等利用の最適化推進に向けて」

～耕作放棄地の解消対策を率先～

栗原市農業委員会

栗原市農業委員会は、平成25年度から耕作放棄地の解消等を目的とした市単独事業「栗原市農業委員会荒廃農地復元モデル事業」に取り組んできました。

契機は、栗原市で耕作放棄地が増加傾向にあることについて農業委員が危機感を抱き、農業委員会の農政委員会にて、管内の耕作放棄地解消の方策の議論が行われたことでした。事業の目的は、荒廃農地について農業委員がモデル的に復元作業を実施することにより、地域の担い手等への利用権設定を図ることです。

事業対象の荒廃農地は、当時農業委員会の3つの各農地部会で1箇所ずつ農業委員が自ら選定しました。また、選定に際しては、農地部会の人員で雑草刈りや耕起等の作業で復元可能な面積と荒廃状況であること、農地の借受希望者（農業委員以外）がいること等に留意しました。

事業実施の結果、平成25～29年度の5年間で2.29haの耕作放棄地が解消されました。これらの波及効果として、モデル事業を実施した農地周辺地区で、自主的に解消される事例が見られるようになりました。これは、農業委員による率先した取り組みが地域の課題を解決した成果であると考えられます。

このような委員達の取り組みが評価され、平成30年度全国農業委員会会長大会の「耕作放棄地発生防止・解消活動表彰」において、全国農業新聞賞を受賞されました。



上段：農業委員による草刈作業を実施（H26年11月）

下段：認定農業者が借受けて作付（H27年7月）

宮城県園芸振興大賞受賞おめでとうございます！

(有)サンフレッシュ松島

4月24日に開催された「平成30年度宮城県園芸振興大会」において、県農業法人協会会員の(有)サンフレッシュ松島が、「第1回みやぎ園芸振興大賞表彰」で大賞を受賞されました。本表彰は今年度創設され、園芸生産、流通加工及び販売を通じ、県の園芸産出額の向上に寄与する優れた団体等を称えるものです。

(有)サンフレッシュ松島は、平成10年にオランダ型温室と養液栽培システムを導入した、本県の越冬トマト栽培の先駆けで、安定した品質が評価されています。平成28年には、岡谷鋼機㈱との共同出資でマキシマファーム㈱を設立し、高軒高ハウス（1ha）でトマトのさらなる増産を進めるとともに、平成30年3月にグローバルGAPのグループ認証を取得しています。代表の内海正孝氏は、平成8年に法人設立して以来、自ら販売店で試食販売を実施するなど、地道な消費促進活動が消費者の信頼を得て、現在の「松島とまと」のブランド化を実現し、有力小売店向けの販売や国内大手の量販店等との契約栽培に繋がっています。さらに、地域の食育にも積極的に取り組み、宮城県ブランド推進協議会と連携し、「親子食育体験ツアー」を毎年開催しています。

また、同大会においては、本協会の(有)氏家農場が水菜栽培と地域の先導的な取り組みが評価され、「第1回全農宮城県本部表彰」の大賞を受賞されました。



主催者と受賞者の皆さん（前列左が内海氏）

農地利用状況調査・利用意向調査の実施について

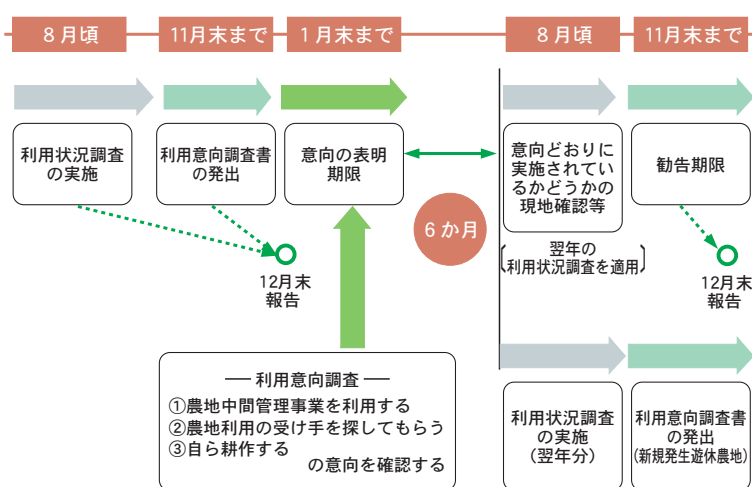
～ 遊休農地の解消に向けて ～

農業委員会は、管轄する農地全筆の利用状況について、8月頃に利用状況調査（農地パトロール）を実施することになっています。また、その調査で把握された遊休農地と「遊休化のおそれがある農地」については、遊休化の解消に向けた農地利用の意向を把握するために、所有者に対し利用意向調査を実施します。利用意向調査は、遅くとも11月末までに発出され、調査書を受け取った所有者等は、翌年1月末までに農業委員会に対し、その意向を示していただきます。「自ら遊休化を解消する」等と回答された所有者については、6ヶ月後の次の利用状況調査時に解消されていない場合は、状況によって農地中間管理機構との協議が勧告されます。

利用状況調査・利用意向調査は、下図のように意向調査票の発出や把握の期限が厳守されていることから、効率的かつ農地の有効利用に向け、農業委員・農地利用最適化推進委員・事務局が三位一体となって、きめ細かな取組を積み上げていくことが重要です。

利用意向調査結果や指導経過等については、市町村や農地中間管理機構、JA、地域耕作放棄地対策協議会等とも情報共有しながら、農業委員会の「農地等利用の最適化の推進に関する指針」に定めた目標に向けて、遊休農地の解消に取り組んだ成果が目に見えるものとなるよう取り組んでまいりましょう。

利用状況調査・利用意向調査（遊休農地）に関する措置の流れ



情報提供活動（農業委員会だより・全国農業新聞等）の一層の推進を

4月12日に東京で開催された平成30年度全国情報会議の「第24回農業委員会だよりコンクール」に、本県代表で応募した登米市農業委員会の「農の広場 登米市農業委員会だより」が、全国農業新聞特別賞を受賞しました。誠におめでとうございます。

受賞した登米市農業委員会は、定期的年3回（29年度は更に特別号2回発行）に発行し、紙面も農業委員会の活動報告、農業委員会からのお知らせや、地域で頑張っている農業者の紹介と分かりやすくまとめられています。

県内では15の農業委員会で農業委員会だよりが発行されていますが、今年度は全ての農業委員会において、農業委員会だよりの発行を行い、農業委員や農地利用最適化推進委員の活動紹介など「農業委員会活動の見える化」に努めていただきますようお願いいたします。

また、「全国農業新聞の情報優良活動表彰」として、大崎市、涌谷町、加美町の農業委員会が表彰されました。3農業委員会とも全国農業新聞の普及拡大に、農業委員と農地利用最適化推進員が一体となり普及推進した結果が受賞に結びつきました。県内の農業委員会においても農業委員会活動の情報提供の重要性をご理解いただき、取り組みいただきますようお願いいたします。



表彰を受ける登米市農業委員会の尾張広報委員長

新しく選任された市町村農業委員会会長の御紹介

1 月及び 4 月の農業委員会改選により、新たに 3 名の会長が選任されましたので御紹介します。
よろしく願いいたします。(回数は農業委員の就任回数)



亙理町農業委員会会長
佐伯 健 (4 回)



山元町農業委員会会長
阿部 賢一 (5 回)



美里町農業委員会会長
伊藤 恵子 (8 回, 常設審議委員)

(一社) 宮城県農業会議の平成30年度事務局職員の紹介

4 月 1 日からの新スタッフです。
小島俊夫新事務局長以下、2 名の新規採用職員が加わり、13 名の体制で農業委員会組織の連携、農地対策、農地等利用の最適化の推進などの支援をさせていただきます。

よろしく願いいたします。



写真 職名・氏名
(*は 4 月からの新規職員)

総務部 審査役 高谷 忍	総務部 指導員 佐藤雄一	農政部 主事 * 早川紘平	農政部 調査役 佐藤英雄	臨時職員 相野谷千絵	農政部 主事 西田陽平	農政部 指導員 小松和明
総務部 契約職員 * 佐藤美由紀	総務部 副部長 井澤香子	事務局次長 兼総務部長 庄司真知雄	事務局長 小島俊夫	事務局次長 兼農政部長 庄子友夫	農政部 副部長 森下純一	

※お知らせ※

『宮城県農業経営相談所』を 6 月 13 日に開設します！

経営意欲のある農業者が創意工夫ある農業経営を展開できるよう、農業経営の法人化、規模拡大、6 次化など農業者の経営課題に対し、関係機関と連携して専門家の派遣などの事業を行います。

相談所は、宮城県担い手育成総合支援協議会、宮城県、(一社)宮城県農業会議が共同事務局のもと、様々な関連機関と連携して、どのような経営相談にも応じます。お気軽に相談ください。

(お問い合わせ先：県仙台合庁内 宮城県担い手育成総合支援協議会 TEL 022-275-9192)

今後予定している行事・研修会

◆東北・北海道ブロック女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会 日時 平成30年7月3日(火) 午後1時～ 場所 福島市 ホテル辰巳屋	◆宮城県農業委員・農地利用最適化推進委員研修会 日 時 場 所 ①平成30年8月30日(木)午後1時30分～ 名取市 名取市文化会館 ②平成30年8月31日(金)午後1時30分～ 石巻市 遊楽館かなんホール
◆東北・北海道農業活性化フォーラム 日時 平成30年8月24日(金) 午後1時30分～ 場所 札幌市 札幌コンベンションセンター	◆第 3 回宮城県農業委員会大会 日時 平成30年11月21日(水) 午後1時30分～ 場所 名取市 名取市文化会館
◆第21回全国農業担い手サミット in 山形 日時 平成30年11月8日(木)～9日(金) 場所 山形市 山形国際交流プラザ	◆就農相談会 (毎月定例) ①若年者就農相談会 第2木曜日 マークワンビル「みやぎジョブカフェ」 ②定例就農相談会 第3火曜日 県仙台合庁601会議室